

348 Duchenne 型進行性筋ジストロフィ症における心筋障害の経時的核医学的検討

長町茂樹 (国療宮崎東病院 放) 岸 雅彦,
井上謙次郎 (同 内) 陣之内正史, 小野誠治,
星 博昭, 渡辺克司 (宮崎医大 放)

Duchenne 型進行性筋ジストロフィ症 (DMD) の心筋病変は、病理学的に心筋の萎縮や変性、線維化が主体であり、それらが進行性に拡大するとされている。今回、昭和59年より2年間にDMDの臨床経過を観察しえた自験例10例について、心筋障害の進行程度を²⁰¹Tl心筋SPECTおよびRI心アングイオグラフィにより定性的、定量的に評価した。

用いた装置は、シンチカメラZLC7500、データ収集処理はシンチバック70Aである。²⁰¹Tl心筋SPECTのデータより²⁰¹Tl心筋摂取率、左室心筋容積を求め、再構成像より低灌流域の分布を判定した。またRI心アングイオグラフィよりcardiac index, stroke volume index, ejection fractionの左心機能のパラメータを求めた。

²⁰¹Tl心筋SPECTでは、加齢とともに低灌流域の拡大がみられ、RI心アングイオグラフィでは各パラメータが進行性に低下する傾向がみられた。DMDの心筋病変の病態把握、および経過観察に²⁰¹Tl心筋SPECT RI心アングイオグラフィが有用と思われた。

349 アドリアマイシン心筋障害の核医学的検討 若杉茂俊 (大阪府立成人病センター 循内) 長谷川義尚, 中野俊一 (同 RI)

アドリアマイシン (ADR) は広い抗癌スペクトルを有する極めて有用な化学療法剤であるが、副作用としての心毒性とくに心筋症発症の危険から投与量は強く制約される。心臓核医学検査によるADR心筋障害の検出、心筋症発症の予知を目的としてADR投与患者22例に²⁰¹Tl心筋シンチグラフィと^{99m}Tc 標識赤血球による心電図同期プールシンチグラフィを施行した。その結果、²⁰¹Tl uptake の低下は左室自由壁に好発し、8例 (36%) に出現した。左室駆出率 (LVEF) の低下は10例 (45%) に認められた。ADR投与量が、400mg/m²以上群 (9例) では4例 (44%) に心筋症が発症し、²⁰¹Tl uptake 低下は全例に出現、LVEFの低下は5例 (56%) にみられた。一方、投与量が400mg/m²以下群 (13例) では心筋症の発症は1例もなく²⁰¹Tl uptake の低下は9例 (69%)、LVEFの低下は5例 (38%) で異常出現頻度に差がみられた。²⁰¹Tl low uptakeの量的指標としたdefect score, LVEF値にもdose dependentの傾向がみられた。以上から、核医学的検査によりADR心筋障害の検出は可能であり、心筋障害度の経時変化からの心筋症発症の予測に対する有用性が示された。

350 Reverse Redistribution と Fast Washout

谷口 充, 中嶋憲一, 分校久志, 四位例靖
南部一郎, 滝 淳一, 利波紀久, 久田欣一
(金大 核)

Tl-201 負荷心筋スキヤンで認められる奇異な現象、Reverse Radistribution (RR) と Fast Washout (FW) について自験例を検討した。

RRは視覚による定性的判断では1500例中32例に疑いがもたれた。定量的判断として、三次元マップでRRを示す部位のExtent score 5%以上、Severity score 10以上の増加をRR陽性とする6例に認められるにすぎなかった。RRの定義については注意が必要と考えられた。RRの部位とA-C bypass, PVC, 冠動脈造影上のcollateralとは特に相関が少ない様である。

FWは6例について報告するが、いずれも心筋梗塞の症例である。興味あることは、RRとFWが時に共存することである。

Tl-201 負荷心筋スキヤンでのこれらの現象は、理由が説明し難くその判定には慎重を期すべきである。

351 Tl-201心筋シンチグラフィにおける

心尖部欠損例の心筋血流マップ法による評価
足立 至, 赤松久司, 吉川秀司, 緒方貴広,
竹内正保, 河合武司, 赤木弘昭 (大阪医大 放)
高田 浄, 貴島範彦 (大阪医大 1内)
楠川順也 (大阪医大 3内)

虚血性心疾患及び種々の心筋症においては心尖部に欠損を呈する症例が多い。今回我々は心尖部欠損を有する20症例に心筋血流マップ法を試みたので報告する。

Tl-201運動負荷心筋シンチグラフィにてTl-201 2mCi 静注し、運動負荷直後及び3時間後安静時にZLC-7500型ガンマカメラにてプラナー像及びSPECT像を撮像した。シンチバック2400を用い、SPECT像より短軸断層像並びに長軸断層像を再構成し、得られた短軸断層像よりCircumferential Profile 曲線を求め心筋血流マップを作成した。

プラナー像及び長軸断層像にて心尖部に欠損を有する症例に心筋血流マップを以上の方法にて作成した。これら2者間を比較対比し、心尖部欠損例における心筋血流マップの有用性を検討した。